

平成30年度 下関商業高等学校(全日制) 学校評価書 校長(藤本 茂)

1 学校教育目標
教育目標・・・①社会人基礎力の育成 ②授業の充実と確かな学力の育成 ③部活動、学校行事等の充実 ④保護者・地域との連携と積極的な情報発信、⑤安心・安全で快適な教育環境の整備
めざす学校像・・・①ビジネスの基礎力を充実させ、ビジネスへの理解力と実践力を備えた生徒
②明朗で、人間としての常識とゆたかな人間性及びたくましい体力を備えた生徒
③常に感謝の気持ちを忘れず、他人を思いやり、誠実で謙虚な生徒
④変化の激しい時代に自ら主体的・積極的に対応でき、創造性を備えた生徒
⑤日本の伝統文化を尊重し、グローバルな視野をもった生徒
チャレンジ目標・・・①国公立大学25名以上合格 ②公務員10名以上合格 ③就職100%内定、3年間は離職しない進路意識の涵養 ④全商1級3種目以上取得者50名以上

(1) 社会に貢献できる人間力の育成 ～凡事徹底、部活動・学校行事等でのさらなる飛躍～ (2) 基礎学力の向上 (3) ビジネスにおける実践力の錬磨 (4) 保護者・地域との連携強化 (5) 安全安心で、快適な教育環境の整備

4 自己評価

Table with 5 columns: 自己評価, アンケート評価 (5 よくあてはまる, 4 ややあてはまる, 3 ややあてはまらない, 2 あまりあてはまらない, 1 あまりあてはまらない), 評価, 5 学校関係者評価. Rows include: 総務 (情報発信の充実), 教務 (学力向上, 教員の指導力向上, 学習支援体制作り), 生徒指導 (就職・進学に対応できる生徒の育成, 生徒会活動の活性化, 環境・美化の推進, いじめ防止・情報モラル教育の推進), 進路指導 (キャリア教育の充実, 就職内定率100%, 国公立大学を中心とした進学指導), 保健体育 (健康管理, 健やかな心と体の育成), 人権教育 (教育相談の充実, 人権教育の推進), 図書 (読書習慣の育成), 情報 (情報機器・校務システムの運用), 第1学年 (基本的生活習慣の確立), 第2学年 (キャリア教育を充実し、進路についての目標を確立する), 第3学年 (進学・就職に向けた知識と態度の育成), 商業科 (1学年...ビジネスの基礎とビジネスマナーの育成, 2学年...上級資格取得への取組, 3学年...社会人基礎力の育成、全商3種目の取組), 情報処理科 (1学年...情報に関する基礎的な知識・技術の定着, 2学年...情報に関する専門的な知識・技術の習得, 3学年...専門的な分野を自主的に学ぶ意欲・態度の育成), 活動的・推進的 (実践的な取組, 高度な学習の展開), 業務改善 (働き方改革に係る「当事者意識」の高揚, 働き方改革に係る具体的な行動)

6 学校評価総括（取組の成果と課題）
<p>【総務】本校からの情報発信としては、総務部が行っている「WEBページ」、「Facebookページ」、「学校案内（主に学校説明会や体験入学で使用）」、担任が発行する「学級通信」などがあるが、それらのすべてがばらばらに行われているのが現状である。今後は、情報を受け取る側のニーズを捉え、どの媒体でどの情報をどこに発信するのかを学校全体で共有した上で、情報を発信する必要があると考えている。</p> <p>【教務】業務内容の効率化や検討は、毎年検討し改善を行っている。生徒の意識については、授業規律等の改善からの向上を今後も検討していく。来年度は、大学入試改革や、次期学習指導要領に基づく教育課程の検討等を行っていく。</p> <p>【生徒指導】生徒はきちんと制服を着こなしており、挨拶・時間厳守等基本的習慣も身につけてきている。掃除の徹底、クリーン作戦・ワックス掛けの充実は図れた。次年度に向けて、ルールの大切さを認識させ、行動できるように指導する必要がある。ゴミの分別について細かい指導をする必要性を感じる。</p> <p>【進路指導】就職は8年連続就職100%を達成することができた。進学は国公立大学進学は例年に比べ、合格者が減った。大学受験希望の生徒には進路選択を早めに決定させ、3学年担任と協力して進学指導を行ってきたい。</p> <p>【保健体育】（体育）集会指導については、より踏み込んだ指導の必要性を感じるが、全教員が一致して指導することが全体の向上につながると思われる。（保健）担任等と連携し治療勸奨等を行っているが、今後も様々な機会を通して生徒の健康に対する意識を啓発することで、自己管理能力を育てることが課題である。また、HR担任等と協力し、健康観察を実施し、生徒の健康状況を把握することができた。</p> <p>【教育相談・人権教育】学校生活アンケートをもとに細やかな対応を行ったが、アンケートに表出されない生徒の悩みへの対処が今後の課題である。</p> <p>【図書】配架等に工夫を凝らし、明るい雰囲気の利用しやすい図書館の環境作りに成果が見られた。生徒により利用頻度に大きな差があることが、課題である。</p> <p>【情報】安定した校内システムの運用ができたことが成果である。教員用PCに不調が出てきているので、情報機器の更なる整備や活用などが課題である。</p> <p>【第1学年】商業教育に大切な礼節を中心に指導してきた。全校朝礼時の集合状態や、人の話を聞く態度等は改善されつつある。継続して指導していく必要がある。</p> <p>【第2学年】学年集会などで商業高校生としての自覚を持てるよう指導し集団行動などが出来るようになった。指導にも素直に従い、はじめとまとまりのある学年になった。細かい指導の行き届いていない部分もあるので今後の課題である。</p> <p>【第3学年】進路については、進学・就職ともにほぼ希望に沿った決定をすることができた。就職に成績優秀な生徒が多く集まったため進学の結果が思わしくない部分もあった。そのため、進学者に対して早めの動機付けや情報の提供をする必要があると思われる。</p> <p>【商業】昨年度の反省から、定期考査前の個別指導や検定対策課外など、各教員が担当クラスの生徒に対して十分な指導を行った。その結果として、2年生の「会計」「原価計算」の合格率が上がった。来年度も連携を強化し、教科指導や検定対策を行っていく。</p> <p>【情報処理】ある程度の方向性は示せたが、学校内外において情報処理科の特色ある教育が明確にできていない。また、新学習指導要領を見据えた取組も十分とはいえない。</p> <p>【業務改善】超過業務時間は着実に減少しているが、業務の見直し・効率化には更に改善の余地がある。業務改善が教職員自らのワーク・ライフ・バランスの実現と持続可能な学校の指導・運営体制の構築に資する取組であることを周知徹底し、「今できることを直ちに実行」しながら、本校における働き方改革を着実に推進していきたい。</p>

7 次年度への改善策
<p>【総務】各種の情報発信媒体の役割を考え、担任とも連携し、適切な方法で情報発信することを検討していきたい。</p> <p>【教務】専門高校としてふさわしい教育内容に加えて、大学入試改革等に対応した指導を各教科と連携して検討していく。</p> <p>【生徒指導】生徒指導部の教員が中心となり、担任・他分掌と連携を図り、きめ細かな指導を図ってきたい。</p> <p>【進路指導】進路指導部の教員が中心となり、学年・他分掌と連携を図り、生徒の目標とする進路実現につなげていきたい。</p> <p>【保健体育】（体育）保健体育科の教員が中心となり、各担任や生徒指導部との連携を強化していきたい。（保健）様々な悩みを抱えている生徒が多いため、SCや教育相談、担任、学年等と一層の連携を図ってきたい。また、下商祭での「骨密度測定」や生活アンケートの実施等、生徒保健委員会活動の充実を図りたい。</p> <p>【教育相談・人権教育】アンケートの必要性に変化はなく引き続き行うべきであるが、アンケートに表出されない生徒の悩みについて、担任団と協力してソナー型探知のシステムの構築が急務である。</p> <p>【図書】校内でピブリオバトルの予選会を行い、地区大会に参加したことが、生徒へ良い効果をもたらしたものと捉えている。この試みを、次年度も継続させて行うことが好ましいと考えている。</p> <p>【情報】教員からの要望を聞き、校内システムのよりよい在り方の模索や情報機器の一層の活用促進を図りたい。</p> <p>【第1学年】中核の学年として自覚を持ち、学習・行事・部活動等に対して意欲的な取り組みを促したい。引き続き礼法等を徹底し、落ち着いた学習環境を整えたい。</p> <p>【第2学年】商業高校生としての最終学年に向け進路実現などを継続し指導する必要がある。次年度に向け自己目標を決定するよう指導していきたい。学力向上のために継続的な家庭学習を促す必要がある。</p> <p>【第3学年】進路決定をした後の日々の生活態度だけでなく、進学後の学習不足を埋める努力、就職後の心構え等に対する意識の高揚を図ることのできる指導の強化を行いたい。</p> <p>【商業】3年生の全商検定1級3種目以上の取得者数について、年々減少傾向にある。授業担当者間の連携を密にし各種検定試験の合格率を向上させることができるよう対策を立てていきたい。また、商業科目全体を通して、社会人基礎力を意識した授業を実践する。</p> <p>【情報処理】情報教育のみならず、簿記教育についても明確な3年間の方向性を示す。全商検定1級取得に対する生徒の態度を育てるための手立てを講じる。高度な情報教育を指導できる人材を育てる。</p> <p>【業務改善】校務の総点検を行い業務の精選・簡素化を推進する。また、メリハリのある働き方のルール化に向けて、とりわけ長期休業中における時差出勤を奨励するとともに最終退校時間の遵守を徹底する。</p>